

第3回学校運営協議会だより

○日時 平成31年2月26日(火)18:00~19:40

○会場 荻野中学校 A棟3階ふれあいホール

○参加者 出席者12名 欠席者3名

○概要

1 会長挨拶

6月に第1回の会議が行われ、これまで本会が進められてきた。子どもたちの生活を見ていると、非常に落ち着いた態度で過ごせている状況が感じられる。

今回の会議では、来年度に向けて様々な意見を聞かせていただき、各グループの反省を踏まえながら、よりよい教育活動の支援をしていければと考えている。

2 学校長挨拶

2月も終わりに近づき、学校は忙しい時期を迎えている。

12月中旬にはインフルエンザに猛威を振るわれ、110人を超える生徒が罹患したが、現在の罹患生徒は「0」である。校舎裏の梅は満開の時期を迎え、春が着実に近づいてきている様子を感じられる。

本日は、先ほど「厚木市教育委員会表彰式」に出席してきた。その中で本校の生徒が文化財保護ポスターで入選し表彰をしていただいたり、本校に長年手作りの絵手紙ポスターを寄贈していただいている萩原トミエさんが功労者表彰を受けられたりした。

このように、本校の生徒や外部の方が、学校や地域、世の中のためになることやその発信をされるように、本校の学校運営協議会も地域から学校、学校から地域のようにためになる発信、活動をしていけるようになればよいと考えている。

<議事>

1 平成30年度の教育活動のまとめ及び来年度の方向性 各担当

I 学習指導グループ

【平成30年度のまとめ】

1 教科指導

- ・家庭学習の定着に向けて、毎日「家庭学習の記録」を記入するようにしたところ、生徒のアンケートでは「家庭学習を意識するようになった」という回答が半数以上となった。反面、保護者のアンケートでは「家庭学習をやっていない」と感じている傾向が見られた。
- ・日々の授業改善については、各教科で積極的に取り組むことができた。

- ・多くの授業で、生徒が主体的に活動する場面や、ICT機器を活用した場面をつくることができた。

2 キャリア教育

- ・1年生は、9月に様々な職業から講師を9名招き、「働くこと」についての講話を聴いた。冬休みには身近な人に職業についてインタビューする機会を設け、各学級で発表会を実施した。
- ・2年生は、9月に職場体験活動を2日間行った。学区内、外の多くの職場にご協力いただき、体験したからこそ学べることを報告レポートにまとめ、各学級での発表会を実施した。3学期には、上級学校（高校や専門学校など）について調べる学習に取り組んだ。
- ・3年生は、夏休みから2学期にかけて上級学校（高校など）を訪問したり、面接練習をしたりしながら、卒業後の進路選択につなげる学習に取り組んだ。

3 図書館教育

- ・図書資料の活用を図るために、今年度も図書委員が選定した図書を各学級で保管する活動（巡回図書活動）を実施した。

4 情報教育

- ・タブレット型のコンピュータが導入されたこともあり、コンピュータ教室での授業に加えて、体育館での授業（保健体育科）、教室での調べ学習（総合学習）など、多様な利用形態での活用を進めることができた。また、各教室でプロジェクトを活用する機会が増えた。プログラミング教育については、技術・家庭科技術分野の授業や、PC写真部の部活動において、積極的に進めることができた。
- ・情報モラルについては、各学年の道德の時間で扱うこととした。読み物資料を通して、社会でのICTの健全な活用について考えることができた。3年生では、健康教育と連携して、ネット依存症について学習した。

【来年度の方向性】

- 教科学習については、新学習指導要領の完全実施に備えて、各教科で授業改善に取り組みながら、生徒が主体的・対話的で深い学びに取り組めるよう工夫を行っていく。一方で、家庭学習や学習会などの機会を通して「補習」に重点を置き、生徒の基礎学力の向上に努める方策を考えていく。
- キャリア教育については、学年に応じた体験活動（職業講話、職場体験活動、上級学校訪問、面接練習など）を柱として、自己の適性や将来について考える学習を進める。そのために、2年生の職場体験発表会を1年生が見学するなど、学習を深める工夫を進めていく。
- 図書室の活用は、学校司書を中心に環境整備を引き続き進めるとともに、教科の授業でさらに活用できるよう工夫していく。

- 情報教育やI C T機器の活用については、タブレット型コンピュータの特徴を生かせるよう、さらに活用場面を増やしていきたいと考えている。プログラミング教育については、授業での取組や、部活動での取組を継続していく。情報モラルの学習は、道徳の時間や健康教育、生徒指導などと連携しながら、生徒の実態に適する時期、適切な内容を見極め、取り組んでいく。

Ⅱ 心の教育グループ

【平成 30 年度のまとめ】

1 生徒指導

- ・生徒たちは集団生活の決まりやマナーを守り、学校全体として落ち着いた生活環境を保つことができている。学習や特別活動、行事、部活動などにも前向きに取り組んでいる。
- ・地域、P T Aによるパトロール等から、地域の中でも落ち着いた生活ができている様子が見られる。
- ・毎週1回行う生徒指導部会では、各学年で集約した情報を交換して、気になる問題には、改善するための方策などを話し合い、指導をすることができた。またその情報を回覧などで全職員に周知し、毎日の指導に生かせるようにした。
- ・教育相談、三者面談、生活アンケートにより、生徒の状況を把握し、いじめや心配のある生徒への素早い対応による予防的な取り組みができた。
- ・生徒たちは「あいさつ」の大切さを自覚し、あいさつがさらに活発にできるようになるため、部活動・専門委員会等、様々な場面で呼びかけをした。専門委員会によるあいさつw e e kなどで、意識が高まってきている。
- ・「通学時の荷物が多い」ことが社会的に話題となっている。本校では、以前から教科書や資料集、ファイル等を教室に置いていけるように対応はしていたが、改めて各教科での見直しや、家庭学習のありかたの確認を行った。

2 生徒支援

- ・不登校などで支援を必要とする生徒が充実した学校生活を送れるように、週1回の教育相談部会を開き、各学年で集約した情報を交換して、今後の支援について話し合っている。生徒指導と同様、生徒支援の情報も回覧などで全職員に周知し、日々の支援に生かすことができた。
- ・継続的な支援を必要とする生徒や家庭に対しては、スクールカウンセラーや厚木市教育相談センターなどの専門機関とも連携し、適切な支援を行うようにしている。

3 道徳・人権教育

- ・道徳では、週1回の道徳を担当が計画的に行い、また担任外道徳として学校長をはじめとする担任以外の教師が道徳の授業を行った。

- ・来年度から道徳が「特別な教科」となるため、指導や評価についての研修を行った。
- ・人権週間に全国人権作文コンクールでの受賞作文を放送で朗読した。また、各学年統一の資料により人権道徳の授業を行い、人権意識を高めた。

【来年度の方向性】

1 生徒指導

- 保護者アンケートなどから「決まりについて明確な説明がなく、わかりにくい」というご意見があった。全生徒が安心安全に学校生活を送るために校則（きまりやルール）がある、というのが基本的な考えあり、集団で生活するために必要なこと、卒業後、社会に出ていくときに必要なこととして、「社会性」を身につけさせる指導を行い、生徒自身にも考えさせていきたいと考えている。それを保護者にも理解していただけるように連携をとっていきたい。同時に、生徒の現状や社会の変化等も考えて、決まりについての見直しは継続し、家庭への周知の方法も考えていきたい。

2 生徒支援

- 不登校生徒が減少しない現状があるため、集団生活に入りにくい生徒が、安心して登校できるような環境（サポートルームや心の教室）の整備を続けていく。
- 「すべての生徒が落ち着いて、安心して過ごせる学級」、「すべての生徒にとってわかりやすい授業」を目指して、職員の研修や研鑽にも励みたい。

3 道徳・人権教育

- 道徳では、道徳の研修会やお互いの授業見学等も計画して、効果的な授業の展開や題材の研究を進めていく。
- 人権意識を高めるための手立てとして、今年度も「手話」の体験学習を1学年で行う。来年度も道徳の時間に外部の講師による講話や体験学習等を取り入れていく。

Ⅲ 保健・安全教育グループ

【平成 30 年度のまとめ】

1 保健

- ・健康診断や保健関係の行事を通し、生徒は自分の成長や発達について関心を持つことができています。
- ・スマホやネット、ゲームなどによる生活リズムの乱れや人間関係等の悩みから欠席が増える生徒もいる。また、朝食を食べずに登校している生徒も約1割いる現状が見られる。各学年の健康教育も生徒の実態に合わせ、心身ともに健康的な生活を送るための判断力や対応力を育てる内容を考え、指導を続

けていく。

2 防災安全

- ・プリント等で交通安全に対する指導を行っているが、今年度も交通事故は起きており、今後も交通安全に対する指導をしっかりと位置づけて継続的に指導を行っている。
- ・今年度も小中学校合同の引渡し訓練を実施した。校内避難訓練（火災・地震）では、緊急地震速報音等を放送して避難態勢を取らせたり、負傷生徒を想定して訓練をしたりするなど、できるだけ実際の場면을イメージできるように工夫して行った。

3 環境美化

- ・生徒自身に生活する場所をきれいにする事の大切さを意識させ、清掃や係活動を通して環境美化を促進している。美化委員会の生徒も各クラスで呼びかけるなど、積極的な活動を目指した。今後も生徒一人一人が自主的に校内環境美化に取り組む姿勢を育てていく。

4 給食

- ・生徒たちは毎日給食を楽しみにしており、食事の時間をできるだけ長く確保できるように、配膳をスムーズに行っている。片付けも当番が協力し、すばやくできている。
- ・喫食調査を見ると、本校は他校に比べてやや残食が多い傾向が見られる。特に、野菜・豆類、魚料理の日は残食が多く、バランスの取れた食生活の大切さを知ってもらえるよう、放送やプリントで食材や栄養に関する紹介を行っている。

【来年度の方向性】

- 生徒自身が、健康で安全な生活（保健・安全・環境美化・食育等）を守る事の大切さについて意識の向上を図り、適切に判断、行動ができる力を育みたい。
- がん対策基本法（平成 18 年）に基づく「がん教育」の推進について、市内各校とも情報交換をしながら、少しずつ方向性を出していきたい。日本人の死亡原因として最も多いがんについて学ぶことは、健康に対する関心を持ち、命の大切さを学ぶことにつながっていくものと考えている。
- 避難訓練では学級担任からの事前指導内容を工夫し、生徒の防災意識の向上を目指したい。また、職員の分担や動きの確認をし、実際に災害が起きたときに適切で迅速な対応ができるようにしていきたい。

Ⅳ 生徒の活動グループ

【平成 30 年度のまとめ】

1 生徒会活動

- ・委員会活動では、昨年の反省から、もっと自治的な活動を委員会が考え取り組んだり、過去からの引き継がれた活動に加えて、新たな活動を創造したりできるよう、教師が導いていく必要がある、ということに視点を置いて取組を行ってきた。そのため、以前に比べると、生徒会活動を中心に、生徒が中心となって話し合いの場を設けて活発に意見を交換し合い、学校をよりよくしていくための活動や、自主的な行事の運営ができてきたと思われる。しかし、教員のはたらきかけが不十分であったり、自主的に活動させたくても、どう生徒に投げかけたり指導したりしたらよいのかわからない面があったりするため、指導力の向上が今後の課題である。
- ・生徒会本部では、例年、自分たちの学校生活がよりよくなるような活動を行っている。今年度も、学校生活の諸問題について解決できるよう取り組んだ。その課題は「休み時間の過ごし方がよくない」ということであるため、代表委員会で解決策を話し合い、各委員会に協力しながら取組を行っている。
- ・来年度は、委員会組織の見直しを行う予定である。現在の委員会組織ができてから十数年たっており、委員会によっては活動内容に差があったり、現在の状況に合うような活動を行う委員会がなかったりするためである。また、委員会組織の見直しという活動を通して、委員会活動や自分たちの学校をよりよくするためにはどうすればよいか、ということ全校生徒に考えさせたい。

2 部活動

- ・部活動では、今年度も多くの部活で優れた結果を残すことができ、生徒が活躍する場面も多く見られた。
- ・今年度も、部長会の活動を活発化させようと、部長会を定期的の実施してきた。各部の問題点を話し合い、解決するための方策を話し合い、来年度も継続をさせていく。

3 ボランティア活動

- ・今年度も、本校ではボランティア活動に力を入れてきた。生徒たちがボランティアに参加しやすくするために、年度初めに今年のボランティア活動の予定を掲示したり、ボランティアを行う生徒がポイントカードのようなIDカードを身につけ、地域の方々にも知ってもらえるようにしたりした。
- ・また、今後の指導の参考のために、ボランティアに関するアンケートを実施し、参加した生徒には参加した理由、参加しなかった生徒には、参加しなかったり参加できなかったりした理由を聞いた。
- ・ボランティアに参加した生徒の感想を、給食の時間の校内放送で紹介をし、

ボランティア精神を広めるきっかけ作りを行ったが、その内容を見ると、学年が上がるにつれてボランティアに対する意識が変わっていくことが見て取れた。

- ・しかし、校内ボランティアの参加者は多いにもかかわらず、校外のボランティア活動に参加する生徒が少ない、という課題が見られた。

4 学校だより・学校ホームページ

- ・保護者や地域の方に学校をより知っていただくよう、学校ホームページの更新を積極的に行ってきた。職員の協力により、ホームページも充実してきた。

【来年度の方向性】

- 昨年度までに比べて今年度は自主的な活動や自治的な活動が増えてきた。来年度は、委員会活動を中心に、過去からの引き継がれた活動に加えて、自治的な活動を充実させられるよう、生徒により意識的にはたらきかけをしていきたい。また、教師の指導力の向上を図っていきたい。
- 部長会の開催を定例化し、部長たちが自分たちの手によってよりよい部活動ができるようにしていく。
- 部活動に関して、保護者との意思疎通を図り、部活の方針を理解していただいたり、諸問題の解決をしたりするために、来年度も部活動保護者会を原則複数回開く方向で考えている。
- ボランティアについて、ボランティア精神を養うことで、より多くの生徒がボランティアに参加できるように、年度初めの学活の時間で、ボランティアの意義や1年間に行われるボランティア活動の予定を担当が説明する。また、ボランティアに参加した生徒の感想を、校内放送や荻中通心、学校ホームページで紹介し、啓発活動をより活発にしていく。
- 校外や地域でのボランティアに参加する生徒が少ないため、その生徒を増やせるような方策を考えていく。
- 学校だより「荻中通心」のサイズを、地域で回覧しやすいよう変更する。

<質疑>

- Q 1. ボランティアの関連で「ジュニアリーダーズクラブ」の存在があるが、学校としてはその活動をどのように捉えているのか。
A 1. 今回説明したボランティア活動については、一般生徒の校外における活動として位置付けているため、「ジュニアリーダーズクラブ」の活動とは別の活動である。
- Q 2. 給食の残食が他校と比較してやや多いというのは、昼食時間が足りない関係もあるのではないか。
A 2. 確かに十分な時間があると言える状況ではないが、生徒は小学校から給食を続けてきていることもあり、要領よく準備等を行い、15分程度の食事時間の確保はできている。学年が上がるにつれてよりスムーズな作業ができるようになる

- ることもあり、残食については時間の短さが大きな要因ではないと考えている。
- Q 3. 小学生に比べて、子どもたちが主体的に物事に取り組み、自分たちで進めていく力はかなりついているように思うがいかがか。
- A 3. 確かにそのような視点で指導に取り組んでいるので、力をつけてきていると思うが、現状を見るとこれからも継続して指導に取り組んでいく必要性を感じている。
- Q 4. 家庭学習習慣が定着していかないのはどのような理由が考えられるか。
- A 4. 週末課題等を設定して宿題を出してはいるが、十分に定着が進んでいないのが現状である。与えられた課題に取り組むというよりは、自分で学習方法等を考え、工夫し、必要性を理解しながら進めていけるようになるとよい。定期試験の計画を立てる取組や計画表を担任とやり取りする日々の活動の中で、適切な支援、助言等ができるように配慮している。
- Q 5. 夏休みの学習会はどれぐらいの人数が参加したのか。
- A 5. 数学や英語等は50人程度の生徒が参加し、主体的な取り組みを行っていた。

2 平成31年度の学校経営方針の承認

校長

1 学校教育目標

はじめに

新学習指導要領が平成33年度に全面実施されます。

この学習指導要領では、生きる力を育むために、各校で特色ある教育活動の実践と充実が求められています。中でも、言語活動の充実、伝統や文化に関する教育の充実、道徳教育の充実、体験活動の充実などが強く求められています。

本校の現状を見ると学校生活に適應できない生徒や、友達や家族関係に悩む生徒の増加の傾向があり、生徒の自主的な活動や主体的な学習活動などに課題が見られます。

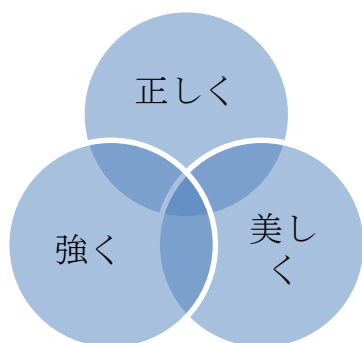
また、厚木市教育委員会では、教育のあるべき姿を「未来を担う人づくり」と捉え、厚木市教育大綱を策定し、5つの基本目標(2つの約束と3つの力)と10の基本方針が示されています。これらの方策を受け、荻野中学校の現状、新学習指導要領をもとに、次に掲げる学校教育目標を設定します。

心豊かで、心身ともにたくましく、思いやりの心を持ち、

正しく判断し行動できる生徒の育成

心豊かで、思いやりの心を持ち …心
心身ともにたくましく …体
正しく判断し行動できる …学力

2 生徒目標



正しく…ものごとを正しく判断できる生徒
強く…強い意志と実践力のある生徒
美しく…人間性豊かで、思いやりのある生徒

3 学校経営の方針

社会の変化に伴い、中学生の実態も昔に比べ大きく変化しています。当然、本校の生徒も昔の生徒とは変わってきています。そういった多様な変化の中で、学校も変わっていかねばなりません。

クラスの中で、障がいを持っている生徒は約6パーセントいると言われていました。また、学校生活に適応できない生徒も増加の傾向にあります。そのような現状から、特別支援や相談支援の充実が必要と考えます。個々の生徒への柔軟な対応や、生徒指導とのバランスを取りながら、生徒や保護者に働きかけていくことが大切です。

生徒が自主的に活動する力を高めていくことが必要と考えます。単に、生徒が活動することが自主的な活動ではありません。生徒が自ら考えて活動することが自主的活動です。私たちが見守り、失敗しても大丈夫という寛容さを持って指導にあたる必要があります。

若い先生が増え、ベテランの先生が異動の時期を迎えた今、教師一人一人が力をつけることが必要と考えます。組織で対応することが大前提ですが、教師自身が生徒指導や相談支援する力を身につけることです。

今の社会は、成熟社会に変化していると言われていました。その社会では思考力や表現力などが必要とされています。その能力の育成のためには、授業を見直し言語活動やICT、アクティブラーニングなどを活用して主体的に学習する生徒を育てることが必要です。

学校の基本は、安心安全な場でなくてはなりません。安心安全が保たれた学校であってこそ、生徒が生き生き活動できるものです。いじめに対する早期発見、早期対応、また、道徳教育を充実させ、自他の生命尊重をする心を育てる教育を進めていきたい。

生徒が元気な挨拶を交わし、期待を胸に登校する。そんな「通いたい学校づくり」を邁進したいと考えます。

(1)安心、安全な学校の推進 (カリキュラム)

- ・安心安全な学校が教育活動の根幹であることを教師自身が認識し、各グループで安心安全な学校づくりを進めていく。

(2)学力向上 (学習指導)

- ・アクティブラーニングや言語活動を積極的に取り入れ、生徒主体の学習活動を進めるための指導を工夫する。
- (3)人権教育の充実 (心の教育)
 - ・道徳教育を中心として体験学習などを取り入れ、自他の生命尊重の気持ちを育てることや福祉教育を充実させることにより、思いやりの心を育てる。
- (4)生徒指導、相談支援の充実 (心の教育)
 - ・生徒指導や相談支援において個々の生徒にあった柔軟な対応をし、明るく元気な生徒を育てる。また、生徒指導と相談支援のバランスをとって指導にあたる。
- (5)特別支援教育の推進 (特別支援)
 - ・障がいをもった生徒が学校生活に適応するために合理的配慮をもって、個々に適した対応を行っていく。
- (6)健康教育の推進 (保健安全)
 - ・健康の大切さについての意識を高め、心身ともに健康な生徒を育てる。また、校内や校外での事故防止に努める。
- (7)生徒活動の充実 (生徒の活動)
 - ・生徒が主役であるということを大切にし、生徒会活動を中心として生徒の自主性を育てる。
- (8)開かれた学校の推進 (生徒の活動)
 - ・地域の中の学校であることを職員や生徒が十分認識して、保護者や地域に理解してもらうためにホームページの充実や校外ボランティア活動を活発にする。

◇ 学校長による説明の後、出席委員全員に承認をいただきました。

3 次年度の教育課程編成に向けての話し合い

○「職場体験学習」の実施に向けて

- ・近隣の受け入れ先の拡充について

別紙：「職場体験学習 受入協力先事業所票」に基づいて、委員の方々のつながりから協力先を拡充していけるように依頼。

○「職業講話」の講師開拓

- ・講師依頼候補者の情報収集

別紙：「職業講話 講師依頼候補者票」に基づいて、委員の方々のつながりから協力者情報を収集していけるように依頼。

4 その他

○平成31年度 荻野中学校学校運営協議会 実施予定

第1回	平成31年 6月 7日 (金)	18時00分～
第2回	平成31年12月3日 (火)	18時00分～
第3回	新元号2年2月25日 (火)	18時00分～